第 1 問

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の（　　）の中にア～カの記号で解答すること。なお、消費税は指示された問題のみ考慮すること。

1．建物の賃貸借契約を解約し、契約時に支払っていた保証金（敷金）￥240,000 について、修繕費 ￥85,000 を差し引かれた残額が普通預金口座に振り込まれた。

ア．建物　　イ．修繕費　　ウ．支払家賃
エ．支払地代　　オ．普通預金　　カ．差入保証金

2．かねて借方計上していた現金過不足 ￥7,800 の原因を調査したところ、同額の手数料の受取りが二重記帳されていることが判明した。

ア．雑益　　イ．支払手数料　　ウ．受取手数料
エ．雑損　　オ．現金過不足　　カ．現金

3．得意先に対する売掛金(前期販売分)￥89,000 が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は ￥148,000 である。

ア．売掛金　　イ．支払手数料　　ウ．償却債権取立益
エ．貸倒引当金　　オ．貸倒引当金繰入　　カ．貸倒損失

4．普通預金口座から当座預金口座に ￥2,000,000 を振り替えた。

ア．現金　　イ．当座預金　　ウ．損益
エ．普通預金　　オ．受取利息　　カ．支払利息

5．商品 ￥180,000 を仕入れ、代金のうち ￥30,000 は注文時に支払った手付金と相殺し、残額は掛けとした。

ア．前払金　　イ．未払金　　ウ．前受金
エ．仕入　　オ．仮払金　　カ．買掛金

6．株式会社の設立にあたり、株式 4,000 株を 1 株当たり ￥380 で発行し、払込金額は普通預金とした。

ア．繰越利益剰余金　　イ．資本金　　ウ．利益準備金
エ．未払配当金　　オ．普通預金　　カ．借入金

7．尾張株式会社に商品 ￥330,000 を売り上げ、代金として同社振出しの約束手形を受け取った。

ア．受取手数料　　イ．受取手形　　ウ．売上
エ．売掛金　　オ．支払手形　　カ．貸付金

8．得意先に対する売掛金 ￥600,000 について、取引銀行から電子記録債権の発生記録の通知を受けた。

ア．電子記録債権　　イ．売掛金　　ウ．受取手形
エ．電子記録債務　　オ．受取利息　　カ．未収入金

9．商品 ￥120,000（本体価格）を仕入れ、代金は10％の消費税を含めて掛けとした。なお、消費税は税抜方式で処理する。

ア．仕入　　イ．仮受消費税　　ウ．仮払消費税
エ．未払消費税　　オ．売掛金　　カ．買掛金

10. かねて約束手形を受け取って姫路商事株式会社に貸し付けていた ￥2,000,000 の満期日になり、同額が当座預金口座に振り込まれたので、約束手形を同社に返却した。

ア．支払手形　　イ．手形借入金　　ウ．手形貸付金
エ．当座預金　　オ．売上　　カ．受取手形

11. 社会保険料について、すでに源泉徴収した従業員負担分 ￥45,000 と当社負担分 ￥45,000 の合計額を普通預金口座から納付した。

ア．社会保険料預り金　　イ．所得税預り金　　ウ．住民税預り金
エ．従業員立替金　　オ．法定福利費　　カ．普通預金

12. 店舗を建てる目的で土地 ￥5,000,000 を購入し、不動産会社への手数料 ￥150,000 を含めた合計額を、小切手を振り出して支払った。

ア．建物　　イ．当座預金　　ウ．土地
エ．支払手数料　　オ．租税公課　　カ．支払家賃

13. 当期首に、5年前の期首に取得した備品（取得原価 ￥900,000、耐用年数6年、残存価額ゼロ）を ￥21,000 で売却し、代金は月末に受け取ることとした。なお、この備品は定額法で減価償却を行い、間接法で記帳している。

ア．未収入金　　イ．普通預金　　ウ．固定資産売却益
エ．備品　　オ．固定資産売却損　　カ．備品減価償却累計額

14. 本日（期首）、前期末に費用勘定から貯蔵品勘定に振り替えた郵便切手 ￥2,900 と収入印紙 ￥18,000 について、適切な勘定科目に振り戻した。

ア．通信費　　イ．諸会費　　ウ．雑損
エ．広告宣伝費　　オ．貯蔵品　　カ．租税公課

15. 店頭における一日分の売上の仕訳を行うにあたり、集計結果は次の売上集計表のとおりであった。合計額のうち ￥33,400 は現金決済、残額はクレジットカード決済であった。なお、クレジットカード決済額の3％を手数料として計上し、クレジットカード会社に対する債権から控除する。

ア．受取手数料　　イ．売上　　ウ．買掛金
エ．クレジット売掛金　　オ．支払手数料　　カ．現金

売 上 集 計 表

X7年6月20日

品　　名	数量	単価	金額
商品K	42	￥　800	￥　33,600
商品M	90	￥　620	￥　55,800
	合　　計		￥　89,400